

五雲会

平成三十年十一月十七日(土) 正午(土)始

演目の解説

次回予告

平成三十年十二月十五日(土) 正午(土)始

小督 局 當山 淳司 雄二

ワキ 野口 琢弘 間 三宅 右矩

大鼓 高野 和音 小鼓 清水

笛 小野寺 竜一

後見

金森 秀祥 山内 崇生

地謡

上野 秋能 藤井 雅寛 川瀬 隆士 佐野 弘宜

高橋 由巨 佐野 俊樹 朝倉 宏司 澤田 司

舟ふな

三宅 近成

高澤 祐介

玉葛 シテ内藤 飛能

ワキ 工藤 和哉 間 前田 晃一

大鼓 佃 良太郎 小鼓 住駒 俊介

笛 槻宅 聡

後見

武田 孝史 小倉 健太郎

地謡

辰野 大 辰野 和磨 辰巳 泰大 佐野 玄宜

小倉 伸二 水上 茂 渡邊 太郎 和久 庄人

〜休憩十五分〜

紅葉狩 シテ木谷 朝倉 哲也 上野 能寛 藤井 秋雅 朝倉 大輔

ワキ 御厨 誠吾 間 三宅 金田 弘明

大鼓 大倉 慶乃 小鼓 鳥山 直也

太鼓 小寺 真佐朗 笛 杉 信太郎

後見

小野 晋也 小林 隆基 金井 隆基 今井 基

地謡

金井 賢郎 金森 克充 戴川 史徳

大友 和英 宝川 光夫 東川 憲正 高橋 正夫

終演予定 午後四時二十分頃

能「小督」(こく) 高倉天皇の寵愛を受けていた小督局は清盛の怒りを知り、密かに身を隠してしまいます。天皇は嘆き悲しんでいたが、小督が嵯峨野の辺りにいるらしいと知って、仲国に捜し出すよう命じます。片折戸のある家というだけの手掛りでしたが、折しも中秋の名月、何度も小督の琴の相手が笛を吹いたことのある仲国は、名月に向けて小督が奏でるであろう音色を頼りに、嵯峨野に馬を走らせました。やつとそれらしい家を探し出して案内を請うと天皇の手紙を手渡し、月下の酒宴で舞を舞い、再び馬に乗ると去って行きます。

狂言「舟ふな」(ふねふな) 所用あつて外出した主従が、渡船場まで来て、家来の太郎冠者が「ふな(ふな)、(ふな)やーい」と呼ぶのを聞きとがめた主人が「それはふなではないふ(ふ)、(ふ)ね(ふ)、(ふ)が正しい」と直します。冠者はそれをきかず「ふなが正しい」「ふねが正しい」とたがいにくずりません。古歌や謡の例まで出して論じ合うが、主人の例の引き方が足らず、太郎冠者に軍配があがつてしまいます。

能「玉葛」(たまかづら) 長谷寺に参詣する僧が初瀬にさしかかると、川舟を操る女性を通りかかります。女は、僧を二本杉に案内し、源氏物語の中で、玉葛が母の夕顔の死後、九州に下つて乳母に育てられていたが、都に上つてこの二本杉で母の侍女であつた右近に会い、光源氏に引き取られることとなつた事を語り、頼んで消え失せます。後半、甲いの内に玉葛は狂乱の体で現れ、我が身に降りかかった男たちの妄執の苦しさを語ります。

能「紅葉狩」(もみじがり)

平維茂は信州戸隠山に鹿狩りに出掛け、山中で酒宴を催す美女達に出会います。不審に思い、遠慮する維茂を女達は引き留め、酒を勧め舞を舞います。維茂が寝入ってしまうのを見計らつた女の舞が急転すると、女達は消え失せますが、尚も維茂は寝入っています。ここに八幡宮の遣いが現れ、今の女は戸隠山の鬼女であると告げ、この太刀で退治したまえと言つて太刀を授け、目を覚ました維茂は現れた鬼女と戦い、切り伏せて去つて行きます。

舎利澤田 宏司	巻絹 小林 晋也	和布刈 小倉伸二郎	平成三十年十二月十五日(土) 正午(土)始
---------	----------	-----------	-----------------------



◎入場料 一般 / 5,000円 学生 / 2,500円

◎会場 宝生能楽堂

J R水道橋駅東口 徒歩3分 都営地下鉄三田線 水道橋駅 A1出口 徒歩1分

☎113-0033 東京都文京区本郷1-5-9